

「日本におけるパリビズマブの使用に関するガイドライン」の一部改訂について

2018年4月

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

パリビズマブ（シナジス®）は、RSウイルス感染症の重症化のリスクを有する児に対して、重症化の抑制を目的として2002年からわが国で使用されています。本剤の投与に際しては、薬剤添付文書とともに、ガイドライン等を参考とすることが指示されています。

2002年に、パリビズマブの使用に関するガイドライン作成検討委員会（日本未熟児新生児学会（現；日本新生児成育医学会）、日本小児感染症学会、日本小児呼吸器学会から推薦された委員により構成）によって「RSウイルス感染症の予防について（日本におけるパリビズマブの使用に関するガイドライン）」が作成されました。その中に、流行期間については「日本の多くの地域では、RSV流行期は通常10～12月に開始し、3～5月に終了する」と記載されていました。近年、RSウイルス感染流行時期が従来と大きく変わってきたことを受け、関連学会との協議の上、ガイドラインの一部改訂をいたしました。

○新旧対照表「日本におけるパリビズマブの使用に関するガイドライン」

（日本小児科学会雑誌 106巻9号1291頁17行、2002年発行）

4頁目 該当部分を抜粋

改訂前	改訂後
<p>2) 用量と投与計画</p> <p>1.パリビズマブの初回投与日と投与期間</p> <p>パリビズマブの有効性を高めるためには、RSV流行開始時までには血清抗体価を予防に必要なレベルまで高めておく必要がある。このため、初回投与はRSV流行が開始する前に行い、流行が終了するまで継続する。</p> <p><u>日本の多くの地域では、RSV流行期は通常10～12月に開始し、3～5月に終了する。しかし、地域差があり、各都道府県において各年度のRSV流行開始時期にばらつきがあることから、入手し得るデータを参考に、パリビズマブの投与開始時期と終了時期を決定することが重要である。</u></p>	<p>2) 用量と投与計画</p> <p>1.パリビズマブの初回投与日と投与期間</p> <p>パリビズマブの有効性を高めるためには、RSV流行開始時までには血清抗体価を予防に必要なレベルまで高めておく必要がある。このため、初回投与はRSV流行が開始する前に行い、流行が終了するまで継続する。</p> <p><u>各年度のRSV流行時期は年度によって変動している。さらに、地域差があり各都道府県において各年度のRSV流行開始時期にばらつきがあることから、<u>感染症発生動向調査等</u>、入手し得るデータを参考に、パリビズマブの投与開始時期と終了時期を決定することが重要である。</u></p>